

西教寺進徳日曜学校だより

西教寺蔵本通支坊 2002.10.5. 呉市中央7-7-13

21-2798 E-mail:chinei63@enjoy.ne.jp

今日したこと

カレーじゃんけん
魔法のじゅうたん

保護者のみなさんへ

ここほれワンワン - 割り切れない気持ち -

昨日、飼っていたカブトムシのオスが死んでしまいました。長男は足を骨折して入院中で不在、二男学（3歳）は、ワケの分からないことをわめきながら騒いでいました。何を言っているかよく分からないのですが、子供なりに何かを感じているようです。

さて、「不殺生...生き物を殺してはいけない」という教えは、よく考えると無理難題のように思えます。「お釈迦さまは殺生しなかったのか?」「私たちに生きるなということか?」という疑問がわいてきますね。

わが家では、子供たちに「生き物を殺してはいけない」「かわいそうだ」と教えてきました。すると、子供たちは家に虫が入ってきたらせつせと外に逃がしてやるようになりました。アリが行列を作ってもせつせと一匹ずつ逃がしてやり、ゴキブリまでも「かわいそうだから逃がしてやろう」というのです。

みなさんならどう答えますか?「そこまでしなくてもいい」とか「益虫は殺してはいけないけど害虫は殺してもいい」とかいいくなりますが、「なんで?かわいそうじゃない」という問い返しには返答できないように思えます。全部人間の勝手な見方ですものね。何だか割り切れない、もやもやした気持ちです。

この気持ちを、「そんなことできるわけない」と無理矢理割り切ってしまうので「ここほれワンワン」じっくり掘り下げてみてほしいのです。私は数年間悶々としていましたが、最近「本来割り切れないことなんだ」ということに気がつきました。「生きることは他を否定し続けること」なんですよ。

私が思うのは、この矛盾の中で割り切れない思いをそのまま大切に持ち続けることが大事なんだと思います。ある時は目をつぶって殺してしまうこともある、ある時は少しはがんばれる時もある、そんな葛藤の中で深い心をもった子ども（人間）が（いや親もですね）育つんだと思います。不殺生とは、割り切らずに日暮しせよということだと感じています。

全国児童作品展作品募集

ふるってご参加下さい。今年の〆切は10月20日です。

◎◎自分の目・他人の目一汝を愛する友を旋うことなかれ一 ◎◎ （真田忠美『こころの扉を開く - 臨床心理学覚え書き - より』）

過去の偉大なる蓄積を見、将来に向けての希望の萌芽を見出せたときに、夢見る未来ではない、実現可能な「将来」が拓けてくるのであろう。

2. 他人を見る目

「他の人と良い関係を持つためには、相手の良い面を探してそこを見るようにすればよい」と言われる。しかし、それだけを無理して頑張っていたのでは破綻を来たすことがある。誰でも、ある人の良い面をきちんと見ることができていても、同時にその人の悪い面に対しての不満もしっかりと持っているものである。一面だけを取り出して他の面を圧えつけていたのでは無理がかゝって当然である。それゆえに、良い面を見るときには、その人の悪い面も同様にしっかりと見るが必要になるのである。たゞ我々は、他人の悪い面を見るときには得てして否定的非難的になりやすい。非難の目で見ていて良い関係を作れるわけではない。

欠点を無視してはいけない。否定しても駄目である。欠点も長所と同様に肯定できて初めてうまくいく。相手の欠点に対して、温かい好意的な眼差しで見ることができるといことが何よりも大切なのである。

欠点を肯定的に見る、とはどういうことか。（つづく）

この次は、**10月20日（日）9時～** です。

その次は11月2日（土）です。

